

平成 15 年度 **長崎国際大学入学試験問題**  
特待生入試・一般学力 2 月入試  
**国語**〔**国語 I**・**国語 II**〕 (100 点 60 分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は、18ページあります。  
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マーク（●印）しなさい。
  - ① 受験番号欄  
受験番号（数字）を記入しなさい。  
正しく記入されていない場合は、採点できないことがあります。
  - ② 氏名欄  
氏名・フリガナを記入しなさい。
  - ③ 志望学科欄， 解答科目欄， 試験会場欄  
該当する欄にマーク（●印）しなさい。
- 4 解答は、解答用紙の解答欄にマーク（●印）しなさい。例えば 

10
----

 と表示されてある問いに対して③と解答する場合は、次の（例）のように**解答番号 10** の**解答欄**の③の欄に**マーク（●印）**しなさい。

（例）

解答 番号	解 答 欄				
	①	②	③	④	⑤
10			●		

- 5 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 6 試験終了後、問題冊子は机上に残しておきなさい。

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1～問8)に答えよ。

いま、パリの子どもたちの間で、「農協こっこ」という遊びが流行しているということを、先ごろ、四年間のパリ留学を終えて帰国した友人から聞いた。この遊びの(ア)ヨウ領はきわめて簡単で、(a)、リーダーの子どもが子どもたちの先頭に立ち、さつさつさつと速足で歩きながら、手にしたハンカチを、時を見て素早く、右または左、上あるいは下に、振り、子どもたちは、リーダーの振るハンカチの指し示す方向を、機敏に見なければならぬ、というのがこの遊びの唯一のルールなのだそうだが、(b)、すこしずつ、リーダーのハンカチの振り方が忙しくなり、同時に、右かと思えば左、上かと思えば下というように指示が複雑化し、(c)、当然、まごついたり、間違えたりする子が出て来るが、そういう子は罰として、みんなから額をぴんと弾かれるのである。(d)、先頭でハンカチを振るリーダーとは旅行社のガイドで、ハンカチは案内標識旗になぞらえてあるのだろし、その旗を仰ぎつつ、右を(イ)ナガめ左を見て、きよるきよる歩くのが日本人の団体観光客なのだろう。

この話を聞いたとき、わたしはAとても不愉快な気分になったものだが、(b)、この遊びのパターンこそ、わたしたち日本人の海外文化摂取の基本型ではないのか、と考えるようになった。大和朝廷の中国文化一辺倒、徳川幕府の蘭学への傾倒、明治政府のヨーロッパ文化(ロ)ツイ従、そして、戦後日本のアメリカ化、みな好例ではないか。(エ)イ政者のハンカチの指し示す文化のみが陽の当る文化で、知識人の出世は、その文化圏に留学することで保証されたのだった。そして、人々は彼等の輸入してくる文化や文明を、世界一という定評の器用さで咀嚼し、そのことが自分を、そして、(オ)同ボウを必ず、幸福にしてくれると、信じて疑いもしなかった。(d)、Bいつの時代も正しい文化はただひとつで、その文化を中心にすべてが価値づけられ、秩序が組み立てられていたのである。その(カ)盤ジャクの如きC一義性の世界に、喜劇など育つ道理はない。というのは、喜劇の方法は必ず多義性を要求するからである。

ベルグソン(笑)が事あるごとく持ち出すあまり面白くもない例でいえば、(笑)の打ちどころのない紳士が(これは表である)ぶざまに転ぶ(これが裏)。高価な帽子をかぶった上品な美人が(表)自分の帽子の上に気取って腰を下ろす(裏)。神様として祀られた乃木將軍は(表)軍旗を奪われた(裏)。空腹の男がリンゴの皮を剥いて(表)実を投げてつまそうに皮をたべた(裏)。ヌター女優と青年実業家が五千万円の大結婚式を(笑)あげた(表)が八十日目離婚した(裏)。犯罪者は盗みを働いて刑務所に入る(表)が中には試験答案を盗むためにわざわざ刑務所に潜入する犯罪者もある(裏)。つまり、それまで嚴重に覆い隠されていた事物や人物の裏側が、突然、表面に浮かび上がり、もっともらしく取り澄ましていた表側と、対決するのを見て人びとは笑うのである。むろん喜劇の方法はこの「表と裏との突然の対決」だけではなく、私が創案し、分類したところでも、六百三十五種のパターンがある(因みにルイ・カザミアンというフランスの学者は千七百八十五種に及ぶパターンを開発したというから、私の仕事はまだまだ貧しい)が、いずれにせよ、喜劇の方法は複眼を要求されるのだ。

ちかごろ、喜劇の台頭が噂されているが、この風潮はじつは、わたしたちの社会の成り立ちが喜劇と同じ構造をとるようになって来たからで、一時の流行現象といつてすむことではないように、わたしには思われてならないのだ。文明はつい最近まで人類に進歩と繁栄を約束すると信じられていた(表)が、公害などの猖獗(狂)を見るところが愚かな(笑)信(信)コウであることがわかってきた(裏)。人類は月に立った(表)が、風邪の(笑)特(特)コウ薬さえない(裏)始末だ。情報や知識はよいものである(表)と信じられていたが、今やわたしたちはその(笑)汎(汎)ランで(笑)チツ息死しようとしている(裏)ようだ。

アメリカは正義の国だ、社会主義国は人間を幸福にするはずだ(表)ったが、e それも怪しい(裏)。そして、最大の喜劇は、人間は地球上で最も(笑)賢(賢)メイな生物である(表)はずだったが、ひょっとすると最も愚かな生物ではないか(裏)という恐ろしい疑問の発生であろう。

そして、この人間のD愚かさを、笑って笑って笑い抜くことが出来たとき、この愚かさは、今よりましな方向へ(笑)キ(キ)ウ正

され得るかもしれない。なぜなら「喜劇の本務は人を楽しませつつ、(セ)キヨウ正することにある」(註<sup>3</sup>)モリエール)からだ。

(井上ひさし「表と裏」『パロディー志願』中公文庫。なお出題にあたって一部手直しした。)

注1 ベルクソン(1859～1941)：フランスの哲学者。ベルクソンとも表記する。生の哲学を主張。本問題文に関しては、

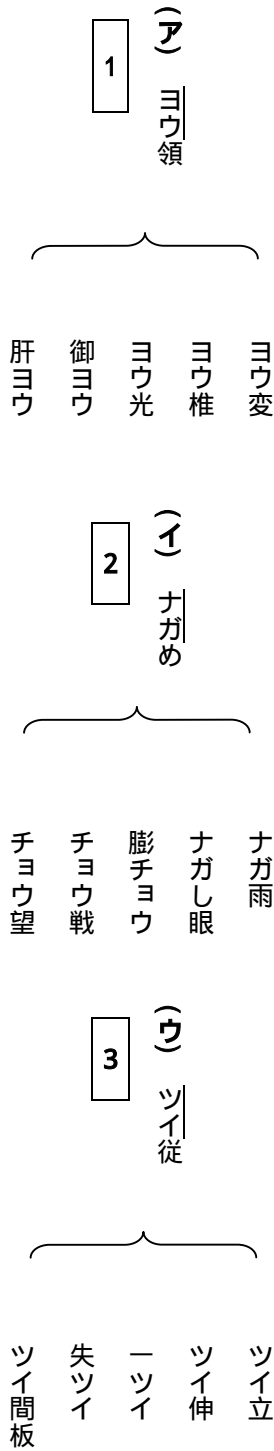
古典喜劇分析と社会的意味の解明を試みた、ベルクソン『笑い』岩波文庫、を参照のこと。

2 猖獗(しょうけつ)：猛々しく荒々しい様

3 モリエール(1622～1673)：フランスの喜劇作家・俳優。フランス古典喜劇の確立者。

問1 傍線部(ア)～(セ)に当る漢字を含むものを、次の各群の 〃 のうちからそれぞれひとつずつ選べ。解答番号は

〃 14。



1

10 (コ) 特<sub>コ</sub>ウ薬

7 (キ) ヒ<sub>キ</sub>の打ち  
どころのない

4 (エ) イ<sub>エ</sub>政者

鉄<sub>コ</sub>ウ石  
廬<sub>コ</sub>ウ橋  
移<sub>コ</sub>ウ措置  
時<sub>コ</sub>ウ期間  
施<sub>コ</sub>ウ規則

自<sub>キ</sub>と<sub>キ</sub>我  
ヒ<sub>キ</sub>惨  
ヒ<sub>キ</sub>賊  
ヒ<sub>キ</sub>屈  
ヒ<sub>キ</sub>雨

推<sub>エ</sub>イ  
名<sub>エ</sub>イ  
行<sub>エ</sub>イ  
イ<sub>エ</sub>議  
イ<sub>エ</sub>星人

11 (サ) 汜<sub>サ</sub>ラン

8 (ク) ア<sub>ク</sub>げた

5 (オ) 同<sub>オ</sub>ホウ

ラン<sub>サ</sub>干  
ラン<sub>サ</sub>造  
ラン<sub>サ</sub>黄  
ラン<sub>サ</sub>外  
ラン<sub>サ</sub>然

快<sub>ク</sub>キヨ  
キヨ<sub>ク</sub>可  
キヨ<sub>ク</sub>構  
根<sub>ク</sub>キヨ  
キヨ<sub>ク</sub>絶

ホウ<sub>オ</sub>令  
ホウ<sub>オ</sub>牧  
ホウ<sub>オ</sub>言  
ホウ<sub>オ</sub>問  
ホウ<sub>オ</sub>子

12 (シ) チ<sub>シ</sub>息死

9 (ケ) 信<sub>ケ</sub>コウ

6 (カ) 盤<sub>カ</sub>ジャク

チ<sub>シ</sub>ツ竿  
チ<sub>シ</sub>ツ虫  
チ<sub>シ</sub>ツ塞  
チ<sub>シ</sub>ツ居  
チ<sub>シ</sub>ツ港

キヨ<sub>ケ</sub>ウ迫  
キヨ<sub>ケ</sub>ウ界  
ギョ<sub>ケ</sub>ウ列  
ギョ<sub>ケ</sub>ウ結  
ギョ<sub>ケ</sub>ウ天

肥<sub>カ</sub>柄<sub>カ</sub>シャク  
解<sub>カ</sub>シャク  
磁<sub>カ</sub>シャク  
軟<sub>カ</sub>ジャク  
孔<sub>カ</sub>ジャク

(ス) 賢メイな

13

メイ文  
メイ店  
メイ惑  
メイ想  
メイ確

(セ) キョウ正

14

状キョウ  
卑キョウ  
余キョウ  
キョウ風  
キョウ信

問2 問題文には次の文章が欠けている。欠けている箇所の次の段落の最初の節はどれか。最も適切なものを 〃 から 選べ。解答番号は 15 〃 17 。

いい方を変えれば、正しいことはただひとつという単眼の世界で成り立つのは悲劇だけであり、そのことについて妥当な見方が二つ以上ある、というのが喜劇の基本的な立場なのである。 15

この話を聞いたとき

ベルグソンが

ちかごろ、

アメリカは

そして、

などというといかにも鹿爪らしいが、これはギャグ一個、コントひとつ分析してみれば容易に納得の行くことで、それらはすべてある事物や人物の表と裏を同時に示すことで、観客を笑わせようとする。

16

この話を聞いたとき

ベルグソンが

ちかごろ、

アメリカは

そして、

つまり、噂される喜劇の台頭は、皮肉にも、わたしたちにとって、最も笑えない事態が接近しつつあることへの、わたしたちの内部からの無意識の警鐘なのではないだろうか。

17

この話を聞いたとき

ベルグソンが

ちかごろ、

アメリカは

そして、

問2 a ) e に入る最も適切なものを次の ) から選べ。

解答番号は a 18 b 19 c 20 d 21 e 22 。

いまや

まず

そうなるよ

やがて

つまり

問3 二重傍線部 A、とても不愉快な気分になった」のはなぜだろうか。最も適切なものを ) から選べ。解答番号は 23 。

わたしたち日本人が優秀なことをフランス人が知らないから。

わたしたち日本人は世界の国々に経済援助しているのに馬鹿にしていると思ったから。

わたしたち日本人がフランス観光をすることによってフランスが潤っていることを忘れていると思ったから。

わたしたち日本人はそんなにも愚かではないはずだと思っていたから。

わたしたち日本人が愚かなのはヨーロッパ文化を摂取したからだと思っっているから。

問4 二重傍線部B「いつの時代も正しい文化はただひとつで、その文化を中心にすべてが価値づけられ、秩序が組み立てられていた」という著者の意に添わないものを次の　　から選べ。解答番号は 24。

第二次世界大戦後の日本は、アメリカ一辺倒となり、英語さえ話せば賢いと錯覚するようになってしまった。

第二次世界大戦後の日本は、さまざまな考え方を容認する文化相対主義の立場に立ち、国連中心主義を基軸とするようになった。

第二次大戦前の日本は、自国の価値観のみが正しいとして、隣国に強要した。

第二次大戦前の日本は、ヨーロッパ文化の受容のために、ヨーロッパから外国人教師を招聘した。

奈良朝期の日本は、中国文化の価値体系に忠実であろうとした。

問5 二重傍線部C「一義性の世界に、喜劇など育つ道理はない。というのは、喜劇の方法は必ず多義性を要求するからである」というが、例示されているのは二義性のみである。二義性というべきところをなぜ多義性と言っているのか。最も適切なものを　　より選べ。解答番号は 25。

二義性といえば二つにのみ限定されてしまうが、三つの場合があるかもしれないと不安になった。

あまり深く考えないで気楽に筆をすべらせてしまった。

通常日本語では二つ以上の意味を含蓄することを多義的というから、二つであっても多義的といえる。

表に対して裏はいろいろ考えられるが、そのうちのひとつを例示しているに過ぎない。例えば、本文の例以外に「この打ちどころのない紳士が葬式で放屁する」などがある。

笑いとばすのは、さまざまな事情（多義性）を理解してからのことである。

問6 二重傍線部D「愚かさを、笑って笑って笑い抜くことが出来た」とき愚かさから脱却できるというが、それはなぜか。

最も適切なものを 〃 より選べ。解答番号は 26。

愚かさを笑って笑って笑い抜くと、疲れてしまい、愚かなことをしなくなるから。

愚かさを笑って笑って笑い抜くと、もっと面白いことを探すようになるから。

愚かさを笑うことは、賢さへの憧れを生むから。

愚かさを笑うことは、子どもの心を取り戻すことになるから。

愚かさを笑うことは、愚かさに気づくことになるから。

問7 筆者の主張として最も適切なものを 〃 より選べ。解答番号は 27。

喜劇の台頭は、作家としての活躍の場が広がることを意味する。

喜劇の台頭は、人間の愚かさに気づく機会を与える。

喜劇の台頭は、一時の流行現象である。

喜劇の台頭は、日本人団体観光客の増加を意味する。

喜劇の台頭は、人々に幸福をもたらす。

第2問 次の文章を読んで、後の問い(問1～問8)に答えよ。

現代の日常生活では見慣れてしまつて特に問題視されない、清潔で明るい空間がある。汚れや暗がり、雑然とした(効用性の低い)ものは周辺または外部に排除され、内部は「整理(ア)」「整頓(イ)」が行き届いている。標準尺度で設計され、人工的に引かれた直線を基礎に、凹凸面や起伏をつぶし、平坦で滑らかにした面を主体として構成される空間である。

人間はこの空間の中で隅々まで人工的に生産されたさまざまな製品・装備を利用し、機械時計によつて標準化された時間に合わせ、あらかじめ作成された時間割に基づいて行動することが、「自然」になっている。身体は、「健康」で、「正常」で、「清潔」であり、しばしば様式化された衣服を身につけ、定型化された言語・動作を、適切な速度で整然と繰り返す。A不特定多数の人々の行動・言語は、標準化され均質化されて、互いに「理性」によつて了解しやすく、また操作・管理しやすい。

非理性的あるいは予測不可能な「異常」な行動、「無礼」「不躰」あるいは「(イ)野バン」なものの、「不潔」な人々や環境が秩序に対する脅威となる。カオス(無秩序)は秩序化されるかコスモスの外に排除される。自然災害は残るが、超自然的なものへの介入は完全に排除され、呪術がコスモスの維持に影響する余地はなく、すべては世俗化されている。この世界の中でこそ、一定の目的を持った集団(機能集団)の経済的・社会的生産効率があがり、B「成長」「発展」「進歩」の基礎が形成される。

これは、身体とそれをとりまく空間・時間に関するひとつの世界のイメージあるいはコスモロジーである。各種の集団における機能の合理性の追求が、このコスモスを生みだし人はそのコスモロジーに従つて生きることが理論となる(時間(ウ)ゲン守・健康管理など)。そしてさらに、「このコスモスは一定の美的感性(整然とした空間や清潔で健康な体は美しいと感じる)を形成することによつて揺るぎないものとなる。この秩序に参加する際には、しばしば経済的あるいは経済外的強制を伴うが、機能・倫理・美がセットになっているため、個々人の自発性やC秩序の一員となる心理的満足感を(エ)カン起し、コスモスをますます強固にする。

ただし、この世界は、人間の営みによって成立しているはずであるが、現実には常に不完全な形でしか見えない。従ってこのコスモロジーは、あるべき世界のイメージにとどまる。しかし、はるか遠くのユートピアというよりは、すでに実現しかかっている手近なコスモスである。その実現を目指して、人々は不断にせわしく活動せざるを得ない。

このコスモスとその中での人々の言語・行動様式は、さまざまな機能集団および都市社会の発達とともに、身分・地域の差異を超えて普及した。その時代を「近代」と呼ぶとすれば、「近代」の達成した成果は、いうまでもなく大きくかつ深い。身分別・地域別に細分されたコスモスから人々を解放し、「近代人」の理念を基礎にした、産業化・組織化・情報化の発展が、多くの人々に「安楽」と「快適」を提供したからである。しかし同時に、人工的社会空間をつくり、維持・管理するために、そしてまた、**D** 快適なこのコスモスに閉じ込められているために、人間が費やした犠牲、失いつつある世界および支払った**(オ)** タイ価は莫大である。

まず第一に、自然環境に対する**(カ)** 負力がある。加工素材とエネルギー資源への依存は、人工的空間が拡大し、秩序が徹底されればされるほど膨大なものと成らざるをえない。そもそも自然に対する理解・利用・操作の可能性を高めることが、この社会秩序の目的でもあったから、「開発」を「環境破壊」と見て、**(カ)** 負力の限界を自覚すること自体がきわめて困難になっている。

第二に、身体や生命といった、人間の中の自然性が、人工的空間と「製品」という名の「合理的物体」に囲まれて、ほとんど不可逆的に変質してしまった事実がある。攻撃的・破壊的**(キ)** ショウ動が仰圧されることは、「文明化の過程」の必然であったとしても、生命の誕生から死ぬまでが人工的秩序に管理されることになって、人間から失われつつある感性・想像力・生命力は計り知れない。無菌社会志向の果てに**(ク)** 免工キ力が弱まり、薬剤耐性菌の逆襲に脅えていることなどは、**(ケ)** 詳細な例に過ぎないであろう。

第三に、秩序化が必然的にもたらす人間の均質化がある。多様性・異質性が失われるだけでなく、個々人精神・身体の差異その

ものに対する評価が低くなっていく。一定の社会秩序の中で、人間関係は相互に予測可能な形をとらなければならぬ意識が一般化する。不慮の葛藤に巻き込まれること自体から人は逃避し、あるいは保険をかけて危険負担を極小化しようとする。その結果ますます、異質なあるいは理解困難な他者に対する想像力が(コ)枯力ツし、例外者、少数者に対する不寛容・敵意・冷淡が昂進する。こうした人間関係の危機の進行を(サ)回ヒするため、例えば都市化社会における「無秩序の効用」が主張されるが、異質な要素を組み合わせた 無秩序 から新たな 秩序 を絶えず作り直すために手間暇かけるよりは、概成の秩序の中で不作為を決め込む気楽な方向に人々は傾きやすい。

第四に、社会秩序が微視的な権力の発生を促進し、個人の自由が抑制されることである。行動の規律は逸脱行動に対する「監視」と(シ)シヨ罰」の装置を発展させ、各機能集団の中で個人行動の集中管理を容易にするからである。問題はここでも、管理されることを圧迫と感ぜず、管理されることによってもたらされる「安楽」感が、不安や緊張を引き受けねばならない 自由 よりも「快適」なことである。

そして第五に、自由な個人相互の対話による公共的秩序の形成が阻害されやすくなる。出来合いの 快適 コスモスの中に自閉した人々にとっては、そもそも異質な他者と議論する必要も機会も極度に少なくならざるを得ないし、市民相互の利害調整活動に積極的に参加して、いわばE市場的社会秩序を実現することは極めて困難となるからである。

(成澤 光『現代日本の社会秩序』岩波書店、尚、出題に当って一部手直した。)

問1 傍線部(ア)～(シ)に当る漢字を含むものを、次の各群の 〃のうちからそれぞれひとつずつ選べ。解答番号は

28  
39

(ア) 整ト|ン

28

トン足  
トン挫  
トン屋  
トン走  
トン田兵

(エ) カ|ン起

31

カン問  
カン激  
カン弈  
カン和  
カン略

(キ) ショ|ウ動

34

敏シヨウ  
稀シヨウ  
折シヨウ  
賠シヨウ  
干シヨウ

(イ) 野バ|ン

29

バン秋  
バン傘  
バン歌  
バン歳  
バン勇

(オ) タイ|価

32

タイ決  
タイ頭  
タイ謝  
タイ意  
タイ院

(ク) 免エ|キ力

35

苦エキ  
利エキ  
ヤク不足  
ヤク師如来  
ヤク病神

(ウ) ゲ|ン守

30

還ゲン  
資ゲン  
尊ゲン  
権ゲン  
幽ゲン

(カ) 負カ|

33

力大  
効力  
力謡  
出力  
力臙

(ケ) サ|細

36

サ遷  
サ少  
サ称  
交サ  
サ話会

37 (コ) 枯カッ  
カッ路  
カッ愛  
カッ走  
カッ望  
カッ脱

38 (サ) 回ヒ  
ヒ勞  
守ヒ  
ヒ免  
ヒ告  
逃ヒ

39 (シ) シヨ罰  
急シヨ  
對シヨ  
証シヨ  
警察シヨ  
猛シヨ

問2 問題文後段部の(点線から後ろ)「第一」から「第五」までに、筆者の主張を的確に表す小見出しを付けるとすれば、どの

ような小見出しがいいか。最も適切なものをくより選べ。解答番号は40く44。

- |      |    |          |            |         |         |          |
|------|----|----------|------------|---------|---------|----------|
| 「第一」 | 40 | 自然環境     | エネルギー資源    | 境界の自覚   | 高度な可能性  | 人工的空間の拡大 |
| 「第二」 | 41 | 薬剤耐性菌の逆襲 | 人工的秩序管理    | 無菌社会志向  | 攻撃性と破壊性 | 自然性の喪失   |
| 「第三」 | 42 | 人間の均質化   | 不慮の葛藤      | 人間関係の危機 | 既成秩序    | 都市化社会と人間 |
| 「第四」 | 43 | 微視的権力の発生 | 逸脱行動       | 自由さと快適さ | 個人自由の抑制 | 不安と緊張    |
| 「第五」 | 44 | 個人的対話    | 公共的秩序形成の阻害 | 快適なコスモス | 他者との議論  | 多くなる自閉症  |

**問3** 二重傍線部A「不特定多数の人々の行動・言語は、標準化され均質化されて、互いに『理性』によって了解しやすく、ま

た操作・管理しやすい」とは、筆者の視点からすると、どういふことだと考えられるか。最も適切なものを〃より選べ。

解答番号は 45。

方言や独特の言い回しはなくなり、人間関係における誤解や感情対立がなくなってくるということ。

方言や独特の言い回しはなくなり、合理的で機能的なロボット集団としての人間が出来上がってしまうということ。

方言や独特の言い回しはなくなり、相互了解がすすみ、清潔で明るい空間の中で快適な生活ができるようになったということ。

方言や独特の言い回しはなくなり、標準的時間に合わせて整然と行動する様式を身につけた人間が誕生するということ。

方言や独特の言い回しはなくなり、誰に対しても、何に対しても平然と対応する無機質な人間が増えていくということ。

**問4** 二重傍線部B「『成長』『発展』『進歩』の基礎が形成される」とあるが、「成長」「発展」「進歩」に対して筆者はどのよう

なイメージを描いているか。最も適切なものを〃より選べ。解答番号は 46。

「成長」「発展」「進歩」とは、現代の象徴であるというイメージ

「成長」「発展」「進歩」とは、現代の達成すべき目標であるというイメージ

「成長」「発展」「進歩」とは、人間の英知の結晶であるというイメージ

「成長」「発展」「進歩」とは、疑いようもなく正しいというイメージ

「成長」「発展」「進歩」とは、正しくないのではないかというイメージ

問5 二重傍線部C「秩序の一員となる心理的満足感」とはどついついことか。最も適切なものを 〃 より選べ。

解答番号は  。

他者との相互理解が達成されたことの満足感

他者が受け入れてくれたことに対する満足感

他者との間に波風が立たなかったことでホッとしたこと

他者と異質である自分を特別な存在として優越感に浸っていること

他者と同質である自分を確認できてホッとしたこと

問6 二重傍線部D「快適なこのコスモスに閉じ込めり続けている」とどついついことになってしまふのだろうか。最も適切な

ものを 〃 より選べ。解答番号は  。

人間の内部的自然の喪失をもたらす。

人間の外部的自然の脅威から逃れることができる。

内省的な人間としての深みを醸し出す。

世間の煩わしさから逃れることができる。

差別や抑圧から解放される。

問7

二重傍線部E「市場的な社会秩序」とは何を意味しているか。最も適切なものを

より選べ。解答番号は

49。

公共的社會秩序形成のために、資本主義經濟を担っている企業が、国会において法改正を要求するためのルール

公共的社會秩序形成のために、株式市場や通貨市場で違法行為のないように見張るためのルール

公共的社會秩序形成のために、自由な個人が討論し、意見を戦わせるための社会的ルール

公共的社會秩序形成のために、国を越えてヒトやモノが自由に往来できるようにするための国際的ルール

公共的社會秩序形成のために、自由な個人が勝手気ままなことをしないように監視するためのルール

問8

筆者の主張として最も適切なものをより選べ。解答番号は

50。

機能・倫理・美がセットとなった社会秩序は、きわめて快適であり、そこにいる人間の想像力や生命力を削ぎ落としてしまふ。

機能・倫理・美がセットとなった社会秩序は、無機質で不快であり、人々の闘争心を呼び覚ましてしまふ。

機能・倫理・美がセットとなった社会秩序は、きわめて快適であり、そこにいる人間の想像力や生命力を育む。

機能・倫理・美がセットとなった社会秩序は、無機質で不快であり、そこから逃れようとするエネルギーの源泉となる。

機能・倫理・美がセットとなった社会秩序は、一層の快適さや安楽を求めて、人間にさらなる工夫を強いる。

平成15年度 長崎国際大学入学試験

特待生 一般学力入試

< 解答 >

国語 I・II

国語 I・II(解答番号 1 ~ 50)

解答番号	解答	解答番号	解答
1	5	26	5
2	5	27	2
3	2	28	2
4	3	29	5
5	1	30	3
6	3	31	1
7	5	32	1
8	1	33	4
9	5	34	3
10	2	35	5
11	3	36	2
12	2	37	4
13	1	38	5
14	2	39	2
15	3	40	3
16	2	41	5
17	5	42	1
18	2	43	4
19	4	44	2
20	3	45	2
21	5	46	5
22	1	47	5
23	4	48	1
24	2	49	3
25	4	50	1